🕊 SON-DAY, AUGUST 30th 2026 WORSHIP SERVICE No.1180
✞単立キリスト教会 マラナサ・グレイス・フェローシップ Maranatha Grace Fellowship【MGF】Since Jan. 18, 2004
教会所在地：〒380-0802 長野市上松２丁目７−２０ ☎: 026-219-2388 牧仕：Kaz、菊地 一徳（かずなり）
🏠 https://mgfchrist.com 🏠www.facebook.com/mgf.nagano.japan 💻 jesus-mail@mgfchrist.com

MGF は、🖪神第一主義、✍キリスト中心主義、☮聖霊主導主義の教会

礼拝黙想 Meditating on Worship

「君は決して大物にはなれないだろう。」

学校長が１０歳のアルベルト・アインシュタインに語った言葉

Ａホームスクーリングとは（チア・にっぽん）

ホームスクーリングにご関心を持ってくださり、とてもうれしく思っています。 心から感謝申し上げます！ 今日、教育への様々な問題が表面化してきています。 しかし、解決法と希望があります。聖書です。 聖書には、子育ての秘訣と解決法が書かれています。ホームスクーリングは、聖書に基づき、親が責任者となり、子どもたち一人ひとりにとって最善の教育環境を整えていくことができます。聖書は、学校任せではなく、親が第一義の責任者として、子どものために時間とエネルギーと愛情を注ぎ、犠牲を払うことを教えます。「あなたが家にすわっているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも」（申命記 6:7）、言わば 24 時間、親が「子どもたちによく教え込みなさい」（6:7）と命じています。 この「教育の原点」とも言える聖書の命令に、親が「はい」と応じ、祖父母や友人、教師、多くの人々の助けや協力をいただきながら子どもたちを育んでいくことがホームスクーリングです。 親の愛と聖書に根差した、究極の「個別対応」であり、カリキュラムも指導者も親によって厳選される意味で、「王家の教育方法」とも言われます。

親が「教育義務」を果たしていく権利は本来、憲法や世界人権宣言で保障されている基本的人権です。 2016 年 12 月に公布された「教育機会確保法」でも、「多様な学習活動の重要性を鑑みる」といった文言が３ケ所書き込まれ、日本でのホームスクーリングを後押しする、法的な環境整備も進んでいます。

ホームスクーリングは 1980 年代、欧米を中心に拡がり、アメリカでは 300 万人もの子どもたちが取り組み、教育の一翼を担っています。日本でも全国的なサポート団体としてチア・にっぽんが 2000 年に立ち上がり、約 2000 家族のメンバー・サポーターのもとで、子どもたちは育まれています。 既に弁護士、医師、教師・保育士、牧師、TV 局記者、公認会計士、航空整備士、美容師、国際ボランティア、専業主婦ほか、国際社会への貢献を目指す様々な子どもたちが育ち、活躍しています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

聖書に基づいた家庭教育を　クリスチャンホームスクーリングの活動に迫る
Christian Today 2007 年 3 月 26 日

「クリスチャンホームスクーリング」という言葉を聞いたことがあるだろうか。ホームスクーリングとは、「子どもの教育を他人任せにせず、家庭をベースに、親が責任をもって指導する」学習形態を指す。このホームスクーリングをクリスチャン信仰の実践に適応し、「クリスチャンホームスクーリング」と呼んでその定着と促進を目指すのは、全国クリスチャンホームスクール支援センター（アージック、ＡＨＳＩＣ＝Ａｓｓｏｃｉａｔｉｏｎ ｏｆ ＨｏｍｅＳｃｈｏｏｌｅｒｓ ｉｎ Ｃｈｒｉｓｔ）の代表を務める吉井春人師（東京・日野バイブルチャーチ主任牧師）。吉井師は、３人の子どもたちをホームスクーリングで育てたほか、ホームスクールをおこなう家族が互いに励ましあい、祈りあう必要を覚え、０１年に「東京ホームスクーリング祈祷会」を開始。その後０５年４月には、全国各地でホームスクーリングをおこなうクリスチャンホームのために、地域の小規模ネットワークを生み出す支援活動をおこなう団体として、現アージックの活動が始まった。

アージックが活動理念として掲げているのは、大きく分けると、「キリスト中心の教育」、「親による指導と教育」、「国家による教育統制からの自由」の３点。今回はその一つひとつについて詳しくみていきたい。

１．キリスト中心の教育

クリスチャンホームスクーリングの祝福は、その活動がキリストを中心として展開されるがゆえにある。しかし日本で「ホームスクーリング」という場合、学級崩壊・いじめ・自殺などにより学校教育が退廃し、親が学校教育への希望を失い、子どもが不登校になった結果の打開策として推奨されてきた傾向がある。

けれども、このように「緊急事態の回避」からホームスクーリングに接続された場合、学校や近所など周囲からその説明責任を求められることは必死だ。そのため、子どもたちも親たちも数々の面で肩身の狭い思いをしてしまうことが多かった。だからこそ、ホームスクーラーたちはもっと積極的に在宅状態を受け入れるための基礎の上に立つ必要があるだろう。そのための手段として、聖書が提唱されるべきだ。つまり、聖書をベースにして「学校教育」というものを明確に捕らえなおすことが必要になってくる。

第一に、聖書には「子どもは家庭をベースに育つ」ということが示されているからだ。「私と、私の家は主に仕える」というヨシュアの言葉に代表されるように、聖書によると、子どもの養育について家庭に対して示された役割は明確だ。

２番目に、キリスト教信仰においては偶像との完全な決別が要求されているからだ。曖昧な信仰は赦されていない。つまり、非キリスト教に基づく教育と聖書の世界観や人生観に基づく教育の間において、どっちつかずの中間地帯などというものは存在しないということだ。聖書をベースにし、毅然とした態度で学校教育を否定する必要がある。というのも、「キリスト中心の教育の中に学校信仰を紛れ込ませたまま」、言い換えると「家庭とは何かについての再検討をしないまま」、形式だけの「擬似ホームスクーリング」を始めてしまう危険性があるからだ。もし、学校信仰との内面的確執が隠され続けた状態でホームスクーリングを続けるならば、それは結局、ホームスクーリングの価値を見失ってしまうことになりかねない。そうなれば結果として、耐震強度を偽造されたビルディングが地震で崩壊するように、バーンアウト（破綻）してしまうことになるだろう。

３番目に、ホームスクーリングに移行した子どもたちには「心の癒し」が必要だ。なぜなら、このような子どもたちは、概して学校教

育と学校文化（競争主義・点数主義・仲間によるいじめ等）から深い心の傷を受けたままの状態にあるからだ。「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます（マタイ１１：２８）」と主が話されたように、主イエスは安息と安らぎを与えてくださる。ホームスクーリングをはじめた子どもに必要なのは、形だけのスクーリングでも、教科書でも、同年代程度の学力でもない。ただ主キリストにある休息なのである。

このように考えた場合、キリスト教信仰が「ホームスクーリング」の実践において果たす役割と効果は明確だ。さらにクリスチャンホームスクーリングにおいて注意すべき点をいくつかあげておく。

クリスチャンにとっての教師は主ただ一人であることを、クリスチャンホームスクーラーたちは認識するべきだ。キリストの主権性を自覚したうえで、どう生きるか（社会性）、どう学ぶか（学問）について再検討しなければならない。しかし、だからといって誤解してはいけない。「キリストの権威を受け入れる」ということは「主だけに従う」ということではなく、「キリストを恐れ尊んで、互いに従う」（エペソ人への手紙５：２１）ことであり、主を中心として互いに尊敬しあい、仕えあい、受け入れあうことを意味している。だからこそ、キリストの権威を受け入れるゆえに、学校の教師を含めて世の全ての権威に対して敬意をあらわすべきなのである。

クリスチャンにとって本当の教科書はただ聖書のみである。しかし、だからといってまた誤解してはならない。「聖書だけが正しいから他の書物や学校の教科書を読んではいけない」ということではない。まずは聖書の権威を教え、御言葉によって魂が養われなければならないということだ。聖書の権威を受け入れた後で、他の書物や教科書を読むことは問題ない。むしろ、聖書の権威のもとでいろいろな教科書の権威を受け入れるべきだ。しかし、キリストの主権性が正しく教育に反映されないことが学校教育の最も深刻な問題だ。学校から生み出された文化は、知識と信仰の分離ばかりではなく、教科学習によって知識が分断されている。けれどもクリスチャンホームスクーリングでは、キリストの権威のもとにあってばらばらに分断された知識と信仰を結び付け、信仰と生活と知識を融合して再構築することを目指している。

２．親による指導と教育

ホームスクーリングに懐疑的な人の意見のなかに、「はたして親に、今の学校が教えているような多彩なカリキュラムがこなせるでしょうか」という声をよく耳にする。しかし、子どものために最も熱心なのは主だ。それは親に教育の責任がないという意味ではなく、「自分が子どもとどのように向き合うべきか」ということよりも、まず「主が家族や子どもにたいしてどのような意志をもっているのか」を理解し、その意志に従う信仰の態度が親には求められているということだ。尊いご計画のうちに主が子どもを育ててくださる。主の意志に従って、家族に役割が与えられ、教会に役割が与えられている。すると、ホームスクーリングにおいては家庭を学校にかわる居場所とみなすというより、「主のご意志にかなうように家庭を再構築する」という目標が自然に見えてくるだろう。

主は弟子たちと生活をともにされた。主は弟子たちとともに飲食し、ともに賛美した。共同生活をしながら、主の生き方全体を通じて模範を示した。言うまでもなく、ホームスクーリングこそ、主と弟子たちが過ごしたかたちに最も近いといえるだろう。だから、ホームスクーリングにおいて最初に問われるのは「親」の責任である。つまり、親の生活全体が直接子どもに影響を与えるということだ。親の言動、態度、行動、性格、信仰など、その生そのものが子どもの成長にとって重要な要素になってくる。だからこそ、親として模範を示せるように、まずは徹底的に主の前にへりくだって謙遜に祈り始めなければならない。これがホームスクーリングを始めるための入り口だといえる。子どもを育てる責任は主から与えられたものであり、そもそも行政や他人が責任を持つものではない。教育の第一責任者は親である。それは主が与えた使命である。

３．国家による教育統制からの自由

ホームスクーリングでの教育は自由であることが特色。しかし、もちろん自由だからといって何をしてもいいというわけではない。自由には責任が伴う。クリスチャンとして、「主が与えてくださる自由には、主から与えられる責任が伴う」ことを忘れてはいけない。また、クリスチャンホームスクーリングでは、「思想・信条の自由」「良心の自由」がしっかりと確立されるべきだ。個人の尊厳が重んじられるべきであって、それを無視した教育がなされるべきではない。国家にふさわしい人材の育成を目指している安倍内閣の教育基本法の改正には断固反対するべきだ。ホームスクーリングは、国家の干渉と介入を受けてはならない。そこでは主にあっての真の「自由」が保証されていなければならない。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

最後に、世界的に著名なホームスクーラーを紹介する。

芸術家ではレオナルド・ダ・ヴィンチなど。音楽家ではヨハン・セバスティアン・バッハ、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト、フェリックス・メンデルスゾーンなど。作家ではアガサ・クリスティ、J・R・R・トールキン、C・S・ルイス、ビアトリクス・ポター（ピーターラビット）など。科学者ではピエール・キュリー、アルベルト・アインシュタイン、マイケル・ファラデー、アイザック・ニュートンなど。実業家ではアンドリュー・カーネギー、ジョーゼフ・ピューリツァー、本田宗一郎など。発明家ではアレクサンダー・グラハム・ベル、トーマス・エジソン、ベンジャミン・フランクリン、ライト兄弟など。アメリカ合衆国大統領では第１代のジョージ・ワシントン、第３代トーマス・ジェファーソン、第１６代エイブラハム・リンカーン、第２６代セオドア・ルーズベルト、第３２代フランクリン・ルーズベルト、などなど、合計１７人のお名前が挙げられる。スポーツ選手ではフィギュアスケートのミシェル・クワン、テニスのウィリアムズ姉妹、アメフトのティム・ティーボウなど。芸能関係ではチャールズ・チャップリン、ダコタ・ファニング、ウーピー・ゴールドバーグ、イライジャ・ウッド、クリス・プラット、テイラー・スウィフトなど。Ω

＜お知らせ **Announcement**＞

★９月８日（火）～９日（水）　ホームスクーリング・ミニストリーミニキャンプ
★９月２１日（月）　ユース＆ユース＋のワンデイ・イベント

MGF はキリスト狂徒の集まるキリスト狂会

「教会［マラナサ・グレイス・フェローシップ（略称：MGF）］はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです」（エペソ１：２３）。「あなたがた［MGF］は、キリストにあって満たされているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」（コロサイ２：１０）。